

◎表彰状伝達

県交通対策協議会長表彰
 【優良市町村交通対策協議会】
 本宮市交通対策協議会
 東北管区警察局長・
 東北交通安全協会会長連名表彰
 【優良運転者】
 小沼 貞彦 (本宮市)

【優良交通安全事業所】
 郡中丸木株式会社 (本宮市)
 交通栄誉章 (緑十字銅章)
 【交通安全功労者】
 日下部 剛 (大玉村)

【優良安全運転管理者】
 真島 敦 (本宮市)
 【優良運転者】
 渡辺 栄治 (大玉村)
 橋本 敏雄 (本宮市)
 阿部 宏一 (本宮市)

県警察本部長・
 県交通安全協会会長連名表彰
 【交通安全功労者】
 齋藤 睦彦 (本宮市)
 遠藤かおり (大玉村)

【優良運転者】
 川名 裕 (本宮市)
 武田 茂男 (本宮市)
 富山 英正 (本宮市)
 加藤 悦子 (本宮市)
 【交通安全優良学校】
 大玉中学校 (大玉村)

◎感謝状贈呈

前大玉村交通教育専門員 伊藤 忠和 (大玉村)
 前大玉村交通安全母の会長 伊藤由美子 (大玉村)

◎地域別交通事故防止コンクール

第1位 本宮地区交通安全協会岩根分会 (本宮市)
 第2位 本宮地区交通安全協会高木分会 (本宮市)
 第3位 本宮地区交通安全協会和田分会 (本宮市)
 第4位 本宮地区交通安全協会第3分会 (本宮市)
 第5位 本宮地区交通安全協会第2分会 (本宮市)
 第6位 本宮地区交通安全協会青田分会 (本宮市)

◎交通安全作文コンクール

応募総数315点
 【小学生低学年の部】
 最優秀賞 糠沢小学校 3年 鈴木 壮琉
 優秀賞 大山小学校 2年 渡邊 咲葵
 佳作 玉井小学校 3年 神野藤吳希
 【小学生高学年の部】
 最優秀賞 糠沢小学校 5年 安齋 怜奈
 優秀賞 大山小学校 6年 高橋 はな
 佳作 本宮まゆみ小学校 5年 遠藤 凜生

交通安全作文コンクール最優秀賞作文を発表する受賞者の皆さん



【中学生の部】
 最優秀賞 大玉中学校 3年 須藤 翠
 優秀賞 本宮第一中学校 3年 遠藤あかり
 佳作 本宮第二中学校 1年 小林 伶暢

【一般の部】
 最優秀賞 本宮高等学校 1年 鈴木 芽衣
 優秀賞 本宮高等学校 1年 大島 侑奈
 佳作 本宮高等学校 1年 吉田 一輝

小学生低学年の部

【最優秀賞】

『外はきけんがいっぱい』

糠沢小学校3年 鈴木 壮琉

小学生高学年の部

【最優秀賞】

『身近な事故を減らすために』

糠沢小学校5年 安齋 怜奈

ぼくは、学校へ行くとき二かしよの交差点をわたって来ます。朝はおしこ
 とに行く人が多い時間なのでたくさん車ははっています。そのため交差点
 をわたるときは、まわりをよく見て車が止まっているかをかくにんして、横
 だん歩道をわたります。青しんごうだからと言ってしんごうむしをする人が
 いたら交通事故に合ってしまうかもしれません。みんなが交通ルールをかな
 らずまもってこれていれば事故がおきることはいくどしんごうを見すこ
 たりするかもしれません。ちょっとした事で事故になることもあるので、き
 ちんと左右を見ることはだいじな事だと思っています。

また、ぼくはお父さんとお母さんが運んでくる車にのって出かける事もよ
 くあります。そのときはかならず、シートベルトをします。しんごうはかな
 らずまもっていますが、とつぜん車がわきからとび出して来たりする事があ
 るかもしれません。一年前の春、友だちの家へ行ったお兄ちゃんをむかえに
 車をうんでんしたお母さんは、林からとびだして来たうさぎがいたためあわ
 ててブレーキをふみました。しかしまに合わず、うさぎは車にぶつかりまし
 た。お母さんはびっくりして車を止めました。うさぎはぶつかったけどビョ
 ンビョンと林へもどっていったそうです。お母さんはとってもショックをう
 けていましたが、生きていたのでほっとしたと話していました。

ぼくはその話をお母さんから聞いてとってもおどろきました。うんでんし
 ていてわきからとび出してくるのは車だけではないとわかりました。うさぎ
 が生きてくれてよかったなと思いました。自分がどんなに気をつけていて
 も、よそうしないことがおきるのでこわいなあと思いました。でもよそうし
 ないことがおきたりするのでそのときに、自分をまもることがひつようだと
 思いました。自分をまもるためにできることはなんだろうと考えました。そ
 れは、歩いていても車にのっていてもあぶない事はおきかもしれないと言
 う気もちをもって、ちゅういする気もちをいだじだと思えます。いつも外に
 はきけんがいっぱいという気もちをわすれずにお出かけしたいと思えます。

みなさんは、スマートフォンをそっさしながら運転している人を見たこと
 がありますか。
 わたしは、見たことがあります。それは、学校からの帰り道でした。わた
 しのそばを通り過ぎようとする車の中の運転手さんが、スマートフォンで話
 をしていたのです。わたしは心の中で「あぶない」と思いました。その行動
 は、命をうばうことにもなりかねないからです。
 例えば、電話に気を取られていると周りが見えなくなったり他の車や障害
 物にぶつかってしまう危険があるのではないのでしょうか。(もし、わたしの身
 近な人がこのような事故にまぎこまれてしまったら、どうしよう。)想像する
 だけで心臓がドキドキしてしまいます。だから、このような事故を一件でも
 少なくするにはどうしたらいいか、わたしなりに考えてみたいと思います。
 まず、事故を少なくするには、運転する人に危険なことを止めさせてもら
 うだけでなく、私たち歩行者にできることがあるはずなんです。わたしは、自分
 だけなく、毎日登校班で小学校に行っています。今年からは一年生の妹も
 わたしは、毎日登校班で小学校に行っています。今年からは一年生の妹も
 加わり、八人で登校しています。いつも班長さんが前に立ってみんなの安全
 を守ってくれています。副班長のわたしは、一番後ろからみんなの安全を守
 っています。いつも心がけていることは、みんなが安心して学校まで行ける
 ようにすることです。いつでも思いやりの気持ちをもって、危険なこ
 とは危険だと教えていきたいです。

次に考えたことは、自転車についてです。わたしは、自転車に乗る時、中
 学生の姉から言われたことがあります。それは、
 「車の死角には、気をつけるんだよ。」
 ということです。(死角って何だろう。)最初は意味が分かりませんでした。
 でも、学校の交通教室で、「死角」について教わり、やっとその意味が分かり
 ました。それは、車を運転している人から見えない角度のことです。どんな
 にドライバースさんが気をつけていても、わたしたちが見えない角度があるの
 だと気がきました。だからこそ、わたしたち自身が大きな車のそばを通る時
 には、気をつけていけばいいなと思いました。
 ここまで考えていくと、ドライバースも、自転車のりよう者も、歩行者もみ
 んなが思いやりを持った行動を心がけることが大切だと思います。悲しい事
 故が一つでもこの地球からなくなるように、これからは落ち着いて生活して
 いきたいです。そして、いつか、わたしも大人になって車を運転するよう
 になってからも、歩行者のことを考えられるようなドライバースになりたいと思
 います。

交通安全作文コンクール最優秀賞作文を発表する受賞者の皆さん

先日、母が運転する車で買い物に行った際に、厩間にもかかわらず車のライトがついていることに気が付いた。「車のライトが付いたままだよ。」と私が指摘すると、母が「これは事故に遭わないようにするために、わざと付けているんだよ。」と言った。詳しく聞いてみると、相手に自分のことを認識してもらったためにライトを点灯しているのだそうだ。その理由は、以前に母が事故に遭ったことによる。

いつも通りに母が車を運転していて、道路を直進している時に、側道から出てきた車に横から追突されてしまったのだ。幸い、母も相手の運転手も軽症で済んだが、車は大きな損傷を受けた。現場検証の結果、事故の原因は相手の前方不注意だった。相手の運転手は、母の運転する車に気付いていなかったそうだ。その時母が乗っていたのは、緑色の車だった。そして、事故現場の近くには背の高い草が生い茂っていた。つまり、母の車は周りの景色に同化してしまい、相手に認識されていなかったがために事故に遭ってしまったのだ。そのため、事故後から母は明るいときでも車のライトを付け、相手に認識してもらえるようにしているのだという。

私は自転車や徒歩で登下校している。登下校中、自分が周囲に気を付けることはあったが、周囲に自分を認識してもらおうという意識はなかった。母の話聞いて、今まではたまたま事故に遭わなかっただけで、もしかしたら認識されずに事故に遭っていた可能性もあったかもしれないと思った。

事故を起こさないようにするために、周りから認識してもらおうとすることは誰にでも簡単にできるはずだ。例えば、暗くていつもより視界が悪いときには、反射材やライトなどをつけることにより、自分の存在を周りに知らせ、それにより事故に遭うリスクを大幅に減らすことができる。また、十字路やT字路、急なカーブがあるところでは、いつもより注意深く周りを見て、相手にも認識されやすい工夫をすることが必要だ。

これらのことのように、自分が交通事故の加害者や被害者にならないように気を付けるのと同じように、誰かを加害者や被害者にさせないように気を付けなければならない。そのためにも、普段から周りに何かあるのか認識することはもちろん、相手からも自分を認識されるように対策をすることも大切だ。

私には、幼稚園の頃から仲の良い幼なじみがいます。休みの日や放課後になると、近くの公園や空き地などでその子やほかの友達とみんなで集まり、よく遊んでいました。遊び場所に行く移動手段は自転車が多かったです。

ある日の夕方、母が急いで私の部屋に駆け込んで来て、「幼なじみの〇〇くんが車に轢かれて、救急車で運ばれたらしいよ。」と言いました。それを聞いた私は、感じたことがないほどの不安と、心臓が止まってしまふほどの衝撃を受け、心配で眠れぬ夜を過ごしました。次の日学校へ行くと、〇〇くんが自転車に乗っていて事故に遭い、入院するためしばらく学校を休むという旨を先生から伝えられ、事故が本当であることを実感しました。

それから一か月ほど経った頃、教室に行くと、事故にあった幼なじみの彼が学校に来ていました。腕はギプスで固められ、三角布で吊られているという痛々しい姿でしたが、笑っている彼の顔を見ることができて、嬉しく、とても安心しました。放課後、彼が事故のことを話してくれました。友達と遊んだ帰り、薄暗かったことと、路上駐車でいた車が陰になっていたことが原因で、彼の姿が見えなかった車と接触してしまいました。腕の骨折と、全身打撲という怪我を負いましたが、ヘルメットをしていたおかげで頭部に損傷はなく、命に別状ありませんでした。その話を聞き、私はヘルメットの重用さを実感しました。

今まで自転車や徒歩で遊びに行く時は、必ず母から「ヘルメットを被っていきなさいよ。」といわれてきました。その時の私は、正直、髪型は崩れるし、可愛くないから被りたくないと思っていましたが、遊びに行くために渋々被っていました。しかし彼の話を聞いた時、母が何度も必死に忠告してくれていたことの大切さを理解することができました。彼も事故に遭ったとき、もしヘルメットを被っていなければ、もう二度と会えなかったかもしれないと思うと、背筋の凍る思いがしました。



芳賀昌則郡山北警察署長より優良運転者表彰を受ける小沼貞彦さん(右)



大会長の高松義行本宮市長より表彰を受ける本宮地区交通安全協会岩根分会(右)

南達交通安全新聞

年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動

運動期間 令和2年12月10日(木) ~令和3年1月7日(木)までの29日間

運動スローガン 「ハイビーム こまめに活用 事故防止」

運動重点

- (1) 道路横断中の交通事故防止
- (2) 高齢者の交通事故防止
- (3) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止(特に、夜光反射材用品等の活用の推進)
- (4) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (5) 飲酒運転の根絶と飲酒が関与する交通事故の防止



第31回 南達交通安全大会

南達一市一村にあっては、依然として交通量が多い状況に置かれており、これに伴い交通事故の発生も増加する可能性を持っていることから、事故防止のための抜本的対策を講じる必要性に迫られております。

本大会は、このような情勢をふまえ、南達一市一村が一丸となって総合的な交通事故防止対策を推進することを目的とし、令和2年11月14日(土)に大玉村の大玉中学校にて開催されました。

大会では、交通安全功労者や地域別交通事故防止コンクールの受賞者に、賞状や感謝状が贈られたほか、交通安全作文コンクールにて最優秀賞を受賞した作文を発表しました。



第31回南達交通安全大会の様子

新型コロナウイルス感染防止対策として、座席間隔を空け、マスク着用や体温測定、消毒対応等を徹底いたしました。

南達交通対策連絡協議会
本宮市・大玉村交通対策協議会 郡山北警察署本宮分庁舎